

5. 2011 年国家会議選挙結果の分析

1. 選挙結果と各種調査の比較

世論財団による出口調査¹は、統一ロシア 45.5%、共産党 21.0%、公正ロシア 14.0%、自民党 13.2%であった。これで議席を計算すると、それぞれ 219、101、67、63 議席となる。実際の獲得議席は、238、92、64、56 議席であった。

世論財団の 12 月 12 日の世論調査²は、統一ロシア 47.0%、共産党 17.9%、公正ロシア 13.8%、自民党 15.1%であった。これで議席を計算すると、それぞれ 225、86、66、72 議席となる（小数点以下の処理で合計 444 議席となる）。統一ロシアはちょうど議席の半数となり、自民党が実際よりも議席が多く算定される。

全連邦世論調査センターの出口調査³は、統一ロシア 48.5%、共産党 19.8%、公正ロシア 12.8%、自民党 11.42%であった。これで議席を計算すると、それぞれ 236、96、62、56 議席となる。これは実際の結果に近似している。

全連邦世論調査センターの 11 月 30 日の世論調査⁴は、統一ロシア 41%、共産党 12%、自民党 12%、公正ロシア 9%であった。これで議席を計算すると、それぞれ 249、73、73、55 議席となる。

レバダ・センターの 11 月 25-28 日の世論調査⁵（）では統一ロシア 50.8%、共産党 15.8%、公正ロシア 15.7%、自民党 13.3%であった。これで議席を計算すると、それぞれ 239、74、74、63 議席となる。統一ロシアは実際の結果と近似しているが、他方で公正ロシアは実際より多く算定される。

なお、投票率は、有効票+無効票を分子、選挙人名簿記載人数を分母とすると、60.1%であった。ちなみに、2007 年は 63.7%であった。

いずれにしても、今回の選挙結果については、出口調査や世論調査から見る限り、大きな偽造とか不正とかはなかったと言ってもよいであろう。

2. 2007 年と 2011 年の各党の得票数、得票率、議席数の比較

2007 年と 2011 年の各党の得票数、得票率、議席数の比較を見ると、いずれも正比例していることがわかる。2007 年に比べて 2011 年には、統一ロシアがいずれも大きく減っており、その反対に他の政党が大きく増えていることがわかる。

2011 年の選挙は、統一ロシアが大きく議席を減らしたという意味で、統一ロシアの敗北であったことは明白である。

国家会議の議席数の変遷を見てみると、2003 年以降、政党数が減少して、与党が形成されたことがわかる。そして、今回の与党「統一ロシア」の議席の減少によって、ロシア国家会議は、一党優位性から徐々に与野党の競合の方向に向かっているように見える。

¹ http://fom.ru/uploads/files/exit_poll_fom/graph.png

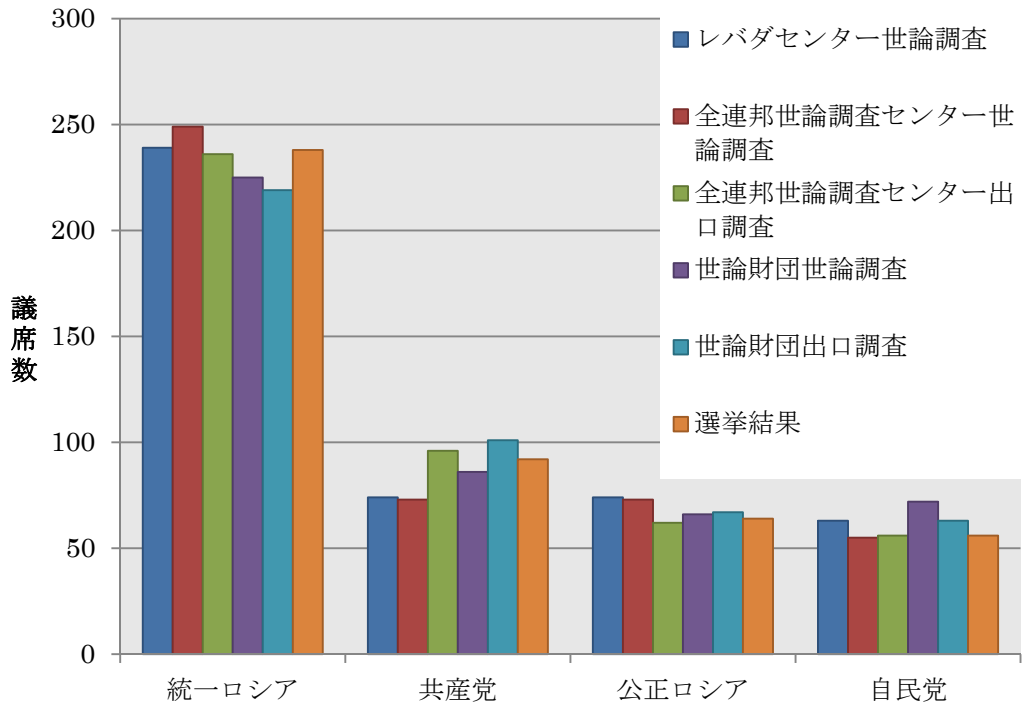
² <http://bd.fom.ru/pdf/d4911.pdf>

³ <http://www.vybory.wciom.ru/index.php?id=566&uid=112175>

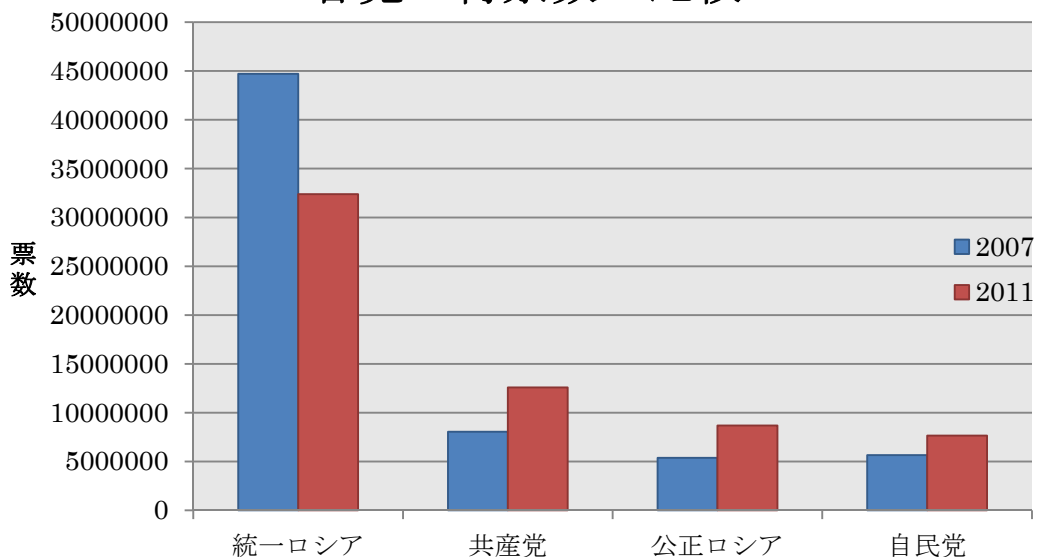
⁴ <http://wciom.ru/index.php?id=170>

⁵ <http://www.levada.ru/05-12-2011/vybory-v-gosdumu-2011-ofitsialnyi-prognoz>

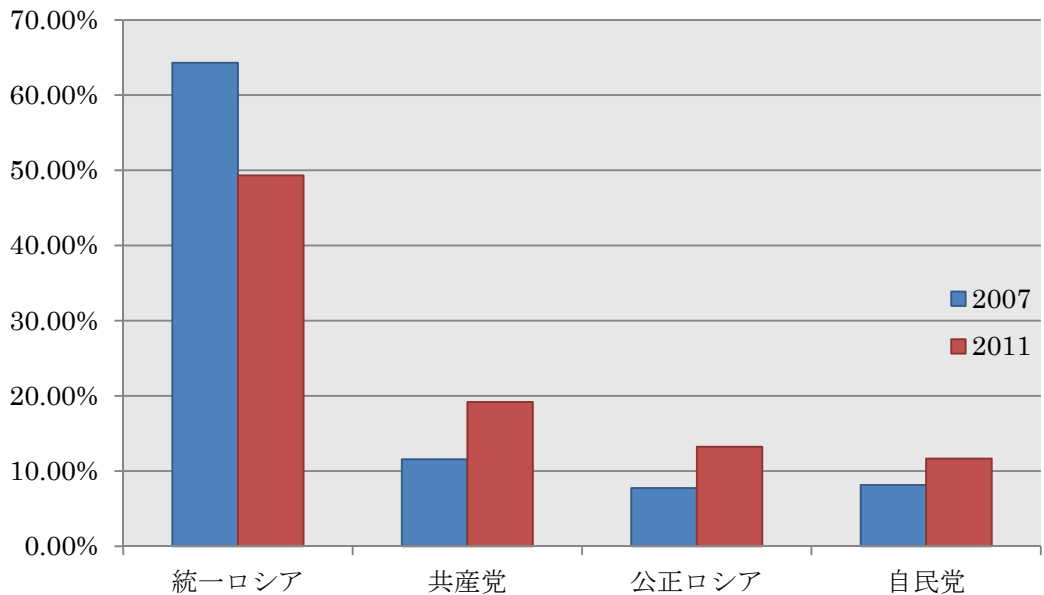
2011年下院選の選挙結果と 各種調査の比較



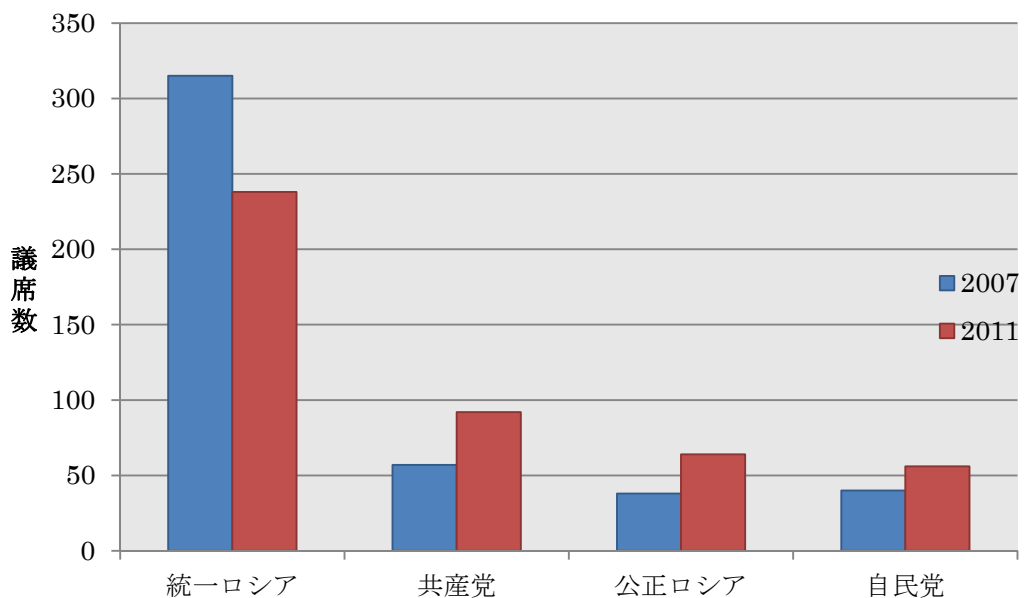
2007年と2011年の国家会議議員選挙の 各党の得票数の比較



2007年と2011年の国家会議議員選挙の 各党の得票率の比較



2007年と2011年の国家会議議員選挙の 各党の議席数の比較



2007年および2011年の各党の得票数および得票率のデータは、ロシア連邦中央選挙委員会ホームページからのもの。

国家会議の議席数の変遷

